

第4回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会専門部会 (経済、スポーツ・文化分野) 会議録

日時：令和4年11月28日(月)10時開会

場所：かでの2・7 1040会議室(札幌市中央区北2条西7丁目)

出席：川島委員、木村委員*、佐藤大輔委員、柴田委員、中田委員、原田委員*、平本
部会長、山本一枝委員(*…オンライン出席)

事務局：浅村政策企画部長、中本企画課長、田中企画係長、熊谷企画担当係長、平岡企
画担当係長

1. 開 会

○事務局(浅村政策企画部長) 札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会の専門部会を開会
いたします。

事務局を務めております札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。

委員の皆様におかれましては、本日は、早い時間から、お忙しい中、ご出席をいただき
まして、ありがとうございます。

おかげさまで、去る10月6日、札幌市議会におきまして第2次札幌市まちづくり戦略
ビジョンのビジョン編が賛成多数で可決をされました。改めまして委員の皆様の本審議会
に対するご尽力に感謝を申し上げます。

本日は、戦略編の経済分野とスポーツ・文化分野について、7月の専門部会などにおけ
るご議論を基に再検討いたしました内容を資料として提示させていただいております。

なお、今回もこの分野に関係する部署の職員がオブザーバー参加しておりますので、よ
ろしく願います。

また、この審議会から年明けに答申をお出しいただくのですが、今回は体裁についても
ご確認をいただきたいと考えております。

それでは、本日もよろしく願います。

○事務局(中本企画課長) 同じく事務局を務めます中本です。本日もどうぞよろしくお
願います。

本日の専門部会は、オンラインも含め、8名の委員の方にご参加をいただいております。

オンラインでご参加の委員の皆様は、ご発言される際に挙手をお願いします。そして、
指名があった後、ミュートを解除してご発言をいただくよう、ご協力をよろしくお願いを
いたします。

それでは、この後の議事進行については、平本部会長にお願いしたいと存じます。どう
ぞよろしく願います。

2. 議 事

○平本部会長 皆様、おはようございます。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、議事に入ります。

お手元にありますように、次第は、まちづくりの基本目標ごとの施策、経済分野及びスポーツ・文化分野について、順次、ご議論をいただきたいと考えております。

まず、前半は、経済分野についてです。

資料1-1と1-2に基づき、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（中本企画課長） それでは、経済分野の議論に入る前に、全体像と関連事項の話を先にさせていただきたいと存じます。

資料が飛んで恐縮ですが、先に資料3の1ページをご覧ください。

1ページは戦略編の答申イメージを図示化したもので、本日ご議論をいただく箇所の確認ですが、第2章のまちづくりの基本目標ごとに取り組む施策の緑色の囲みの真ん中のちよっと右になりますが、経済分野、それから、スポーツ・文化分野となります。

これは、7月に続いて2回目のご議論となりまして、7月にいただいたご意見をどのように反映させていったかという点を中心にご説明させていただき、追加のご意見を賜りたいと考えております。

資料3の以降はまた後ほどご説明をさせていただきます。

参考資料をお手元におつけしているのですが、参考資料1です。こちらは、本日ご議論をいただく経済分野、スポーツ・文化分野だけではなく、全部の分野の最新版のものとなります。ほかの分野を確認していただく必要が生じたときにご参照をいただければと思います。

それから、参考資料2は、先ほどの資料3で言う第1章になります。分野横断的に取り組む施策、ユニバーサル、ウェルネス、スマート、人口減少対策ということで、これは9月にご議論をいただいたものですが、ご意見の反映作業中でして、9月にご議論をいただいた状態のものを参考までにおつけしております。分野横断のほうに話が及んだときに、適宜、ご参照をいただければと思います。

それから、参考資料3は、A3判の青い帯のついたものです。こちらは、本年6月に、市民ワークショップをはじめ、ご議論をいただいているビジョンについて、市民からもご意見をいろいろといただいているのですが、その結果をまとめたものです。なお、3枚目の右側が経済分野に関するご意見、4枚目の左側がスポーツ・文化分野に関するご意見です。

この場でご議論をいただいていることと市民の皆さんからいただいたご意見は大きくはそれていないと捉えておりますが、市民の方からいただいたご意見の中でも、先の10年間を考えて盛り込んでいくべきものはこのビジョンに反映していきたいと考えております。

それから、参考資料3の6枚目ですが、こちらは地下歩行空間で意見収集を行ったとき

にいただいたご意見をまとめたものです。

それから、7枚目は、それ以外、様々な方法で市民の方と議論させていただいています。主に若い方たちと議論させていただいたものをピックアップし、整理しました。例えば、左上の小学生、高校生との意見交換、あるいは、右上の北海道大学新渡戸カレッジとの連携では、まちづくりに関する提案をいただいております、主なものをそこに掲載しております。

このように、委員の皆さんにご議論をいただいているビジョンは、我々の中だけで作り上げて終わりではなく、いろいろな方々に浸透させ、一緒に考えていただく、まちづくりについて協働で取り組んでいただく方を少しでも増やしていくよう、様々な取り組んでいるところですので、ご参照をいただければと思います。

それでは、前置きが長くなりまして恐縮ですが、経済分野の施策の説明に入ります。

資料1-1と資料1-2になります。

資料1-1がいただいたご意見を反映した後のバージョンでして、資料1-2が、どう反映したか、あるいは、諸事情により反映できないものについてはどのような考え方で取り組んでいくかを整理しております、本日は資料1-2を主に最初にご説明をさせていただきたいと存じます。

左側に通し番号を振っておりますが、まずは基本目標10についてです。

ナンバー1のご意見です。

基本目標にある北海道の経済を牽引しているということが施策からは読み取れないのではないかというご意見でした。ご意見を踏まえまして、札幌だけでなく、道内の地域と連携していくことを表すということで、基本目標10の目指す姿1の食産業の競争力強化に向けた施策のところには北海道の魅力を生かしたと追記しております。

また、北海道の経済を牽引していくという視点については、経済分野のみならず、戦略編の第3章の行財政運営の方向性に総体的に北海道とともに発展する札幌市の中に経済成長を牽引していくということも示していきたいと考えてございます。

次に、ナンバー2のご意見です。

同じく、札幌の強みである食分野について、加工製造業の促進という観点を盛り込んでというご意見でした。右側の欄にあるとおり、下線部を追記しております。

おめくりいただきまして、2ページになります。

ナンバー3のご意見です。

目指す姿1に関して、高付加価値を目指すべき、それを表現したほうがいいのではないかというご意見でした。右の欄にありますとおり、観光分野についてそれが少し見えづらかったと考えましたので、下線を引いておりますが、観光の高付加価値化に向けて、札幌市・北海道の魅力を生かしたと追記しております。

次に、ナンバー4のご意見です。

観光コンテンツの充実に関連するスノーリゾートやスポーツツーリズムについて、分野

横断的な内容であり、スポーツ・文化分野の施策を記載しているため、そのことが分かるような注釈を入れてはどうかというご指摘です。目指す姿1の施策の最後にその旨を追記していただきまして、こちらは資料1-1でご確認をいただければと思います。

おめくりいただきまして、3ページになります。

ナンバー5のご意見です。

教育格差の是正のための学習支援ということをしてIT産業に関わる施策として書けないかというご指摘です。こちらにつきましては、主に子ども・若者分野にその旨の記載をさせていただいておりますので、そちらに掲げて取り組んでいきたいという考えです。

続いて、基本目標11についてです。

ナンバー6のご意見です。

目指す姿1に、多くの企業が後継者不足に直面していること、これを踏まえて、事業継承に関する支援を行う記載があっているのではないかとのご意見でした。その旨の追記を行っております。

おめくりいただきまして、4ページになります。

ナンバー7のご意見です。

目指す姿1の施策の書きぶりが非常にあっさりしている、施策を分けて表現をするのがよいのではないかとのご指摘です。右の欄にあるとおり、施策の前段の何々に向けての部分で共通しますので、二つに分けるとのことまでは行っていませんが、下線を引いたとおり、企画、開発、販売促進等を支援しますということで、記載を補強する形で対応させていただきました。

次に、ナンバー8のご意見です。

目指す姿2のデータ活用に関する書き方が抽象的であって、特にデジタルインフラに関する取組を書いたほうがよいのではないかとのご指摘です。ご意見を踏まえて、様々な分野の生産性と強靱性の向上に向けてと追記するとともに、データセンター等のデジタルインフラの集積に取り組むという表現を追記しております。

なお、このご意見は本日ご欠席の山本強委員からのものですが、山本強委員に直接ご確認いただいたほうがよいだろうと平本部長からもご意見をいただいたところで、今、確認をお願いしている最中です。お忙しいようで、まだお返事はいただけておりませんが、次の審議会までには整理をしたいと考えております。

おめくりいただきまして、5ページになります。

ナンバー9のご意見です。

創造都市やインタークロス・クリエイティブ・センターなど、未来に関わるものの記載があってもよいというご指摘です。これについては、この後の議題になっていますが、スポーツ・文化分野の施策の修正しております。

また、ICCやNoMapsといった取組については、基本目標11の目指す姿4の施策の二つ目にオープンイノベーションの促進と掲載しておりますが、ここで取り組んでい

くという考え方です。

続いて、基本目標 1 2 についてです。

ナンバー 1 0 とナンバー 1 1 のご意見です。そして、6 ページに飛びまして、ナンバー 1 2 のご意見で、この 3 点が人材に関するものとなります。

ナンバー 1 0 とナンバー 1 1 は、主に外国人材についてですが、高度人材としての活用という観点と札幌で暮らす外国人の方の就労支援という観点があります。高度人材としての観点については、基本目標 1 1 の目指す姿 4 の企業の海外展開に関する施策のところに外国人材の採用と明記しており、外国人の支援という観点につきましては、基本目標 1 2 の目指す姿 2 に記載しております。

それから、ナンバー 1 2 のどのような人材を求めていくかという視点ですが、経済成長を支える重点分野として、基本目標 1 0 に食、観光、IT、クリエイティブ、健康福祉・医療分野を掲げていますが、その中で人材の確保に向けた取組を行うことを記載しております。

また、意見対応表にはございませんが、分野横断的に取り組むスマートの分野に、高付加価値人財の育成、定着につながる取組を掲げておりまして、ご指摘をいただいたターゲットについてはそこで表現をさせていただきたいと考えております。

また、ご指摘をいただいた産業以外にも、建設業など、担い手が不足している業種への支援も行政としては観点として持っておりまして、基本目標 1 2 の目指す姿 1 に盛り込み、取り組んでいきたいと考えております。

最後に、7 ページになります。

ナンバー 1 3 とナンバー 1 4 のご意見です。

人づくりということを前面に出し、特に若者の地元定着に向けて大学と地域や企業のつながりを創出していくべきはというご意見です。若者の地元定着については、子ども・若者分野において、大学と地域や企業、大学間の連携を推進しますと掲げておりまして、ここで取り組んでいきたいと思っております。

また、分野横断的に取り組む施策の中の特に人口減少緩和策になりますが、大学との連携による若者の地元定着や、大学、企業、地域コミュニティの活性化を掲げておりまして、ここの対応表にはありませんけれども、加えて、スマートの分野においても、高付加価値人財の育成、定着も掲げておりますので、それも含め、取り組んでいきたいと考えております。

ご説明は以上ですが、主に修正した資料 1 - 2、それを反映した資料 1 - 1 を改めて俯瞰的にご覧いただき、お気づきの点などがあれば忌憚のないご意見をいただけると幸いです。

○平本部長 それでは、ただいまご説明をいただきました資料 1 - 2、それを反映した資料 1 - 1 についてご意見やご質問等があればお願いいたします。

○山本（一）委員 少し補足をお願いしたいところがあります。

基本目標11の目指す姿3の下の充実強化することのところにスタートアップの創出、スタートアップの成長支援、企業、人材の集積と書いてあるのですけれども、そこは人材の育成及び集積と記載していただきたいと思います。

なぜかと言いますと、札幌の経済発展を実現させる人が本当に必要ですけれども、札幌に愛着を抱き、札幌を豊かにしたいといった気持ちを持って起業する方をどうするのか、集めるだけではなかなか難しく、そこに育成というものを付け加えていただきたいということです。

具体的に申し上げますと、今まで、私はたくさんの方にお会いしましたが、一番成功したベンチャーの方の名前を挙げますと、2015年10月に北海道大学でセミナーがあり、そこで話を聞いた久能祐子さんという方です。その方は、日米で創業ベンチャーを起業し、成功させました。2015年5月にアメリカのフォーブスが選んだアメリカで成功した女性50人に選ばれ、非常に大きな業績を収めていらっしゃいます。

そのときのセミナーではキャリアの壮大なお話でしたが、それに対してベンチャー成功に必要なことは何ですかというご質問がありまして、自己肯定能力とお答えなりまして、それが非常に印象的でした。

成長できるベンチャー人材というのはすごく育成が難しいのですけれども、やはり、国際的に成功されていらっしゃる久能さんのような方にアドバイザーになっていただくというようなことになれば大変ありがたいです。

また、アメリカで若い起業家やアーティストを育成する寄宿型のハルシオン・インキュベーターを創設されて活動されていらっしゃるのです、ベンチャー支援をしたいとそのときもおっしゃっていたのです。そんな話からも、どうしてこのまちで起業したいのかも含めた育成が必要だということです。

それから、なぜ自己肯定能力が必要なのかももう少し掘り下げる必要があると思っています。やはり、札幌で育つ子どもが、札幌で育ってよかった、それから、このまちをよくしたいと思えるような社会全体での環境づくりが必要かなと思いますし、その中で、札幌市が強みとする芸術や文化、スポーツ、科学への挑戦など、子ども時代に多くの経験をすることを通して、失敗を恐れない強さを身につけるようにできるのではないかと思います。

札幌には立派な分野の一流の方が在住していらっしゃいますので、その方々とも交流するなりして、子どもたちがこのまちで起業したいと思えるような人材育成をぜひしたいなと思ひまして、先ほどの充実強化することのところに人材の育成及びという言葉を追加していただきたいということです。

○平本部長 基本目標11の③の赤枠の中に、人材の集積だけではなく、育成を入れたらどうかということでした。上にも育成というワードが入っているのですけれども、事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局（中本企画課長） スタートアップの成長支援の中に人材育成というのは当然含めて取り組んでおりますので、それも見える形で対応したいと思いますが、中で議論させ

ていただきます。

○平本部会長 いろいろなところに育成という単語自体は入っていますが、今、山本一枝委員がおっしゃった精神がきちっと反映されるように文言を調整していただければと思います。

ほかにご意見等がございましたらご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員の皆様の前回の7月のご発言を踏まえて、大分丁寧に拾っていただいた上で文言もかなりご検討をいただいたので、まあまあ反映されているのではないのかなと私も思っているのですけれども、気になる点がございましたらご遠慮なくご発言をいただきたいと思えます。

○中田委員 もしかしたらどこかに触れているのかもしれないですけれども、気になったのは人材の採用に関してです。

基本目標12かと思えますけれども、これだと②の目指す姿2に入ってくるのか、一番下のところに女性、高齢者、外国籍の方、障がいのある方などの活用機会の創出に向けて多様な人材の就業を支援しますとありますよね。これはこれで、多分、そういった方々の採用に向けていろいろと支援をするという意図だと思うのですけれども、一方、企業側に立ったとき、企業としても多様な人材を採用していく方向にありますし、一人でも多くの方に企業で仕事をしてもらいたいというスタンスでずっと来ていると思うのです。

であるがゆえに、例えば、出産を終えた方を採用する、あるいは、子育てが終わってまた仕事をしたいという方を採用する、あるいは、外国の方を採用する、高齢者の方も再雇用で採用していきたい、障がいの方も採用していきたい、でも、企業として採用に障壁があつてなかなか踏み切れない、あるいは、思い切つてその方を長期にわたって採用できないという現実もあると思うのです。

ですから、企業側でそういった方を積極的に採用できるような環境づくりというか、支援みたいなことを、もしかしたらどこかで触れているのかもしれませんが、何らかの形で表現をしていただけるといいのかなと思いました。

○平本部会長 受け入れたくても受け入れられないような事情が企業側にはある場合もあるから、それに対する行政のサポートというか、そういったことを盛り込めないかというご意見だと思います。

これは、どこか関連するといいますか、ユニバーサルのところでも似たようなことをうたっていませんでしたか。私も全体像を完全に覚えていなくて申し訳ありません。

○事務局（中本企画課長） ここで表現している多様な人材の就業支援というのは、働かれる方の支援だけではなく、中田委員がおっしゃったような中小企業等への支援なんかも含めた意図で書いたつもりでしたが、それが読み取りにくいのかなと感じましたので、表現を少し考えさせていただきます。また、ご指摘の点は事業としてもしっかり取り組んでいきたいと考えております。

○平本部会長 お考えはいただいている、あとは表現の仕方ということだと思いますが、ご検討をいただきたいと思います。

ほかにはいかがでございましょうか。

オンラインでご参加のお2人の委員からもしご意見がございましたらご発言ください。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本部会長 よろしければ、次のスポーツ・文化に移ります。

本日の会議中に経済の分野についてお気づきの点がありましたら後ほどご発言をいただきたいと思いますが、進行上、経済分野についての議論をここで終え、スポーツ・文化分野についてのご説明をいただきたいと思います。

それでは、事務局から説明をよろしくお願ひいたします。

○事務局(中本企画課長) それでは、スポーツ・文化分野について、こちらも同様に、資料2-2の意見対応表のほうで主にご説明させていただきます。

最初に、基本目標1-3についてです。

ナンバー1のご意見です。

ウィンタースポーツのアスリートの活躍に向けて、発掘だけではなく、支援するという表現が必要だろうというご指摘です。目指す姿1の充実強化すること、それから、施策の丸の上から二つ目に支援という表現を明記しております。

次に、ナンバー2とナンバー3のご意見です。

札幌が世界屈指のウィンタースポーツシティである根拠を明記すべき、その検討に当たって都市機能をスポーツ分野にうまく加える視点があってもよいのではないかというご指摘です。目指す姿1の充実強化することのウィンタースポーツ環境の整備の前に、札幌市の都市機能や気候、道内のスポーツ環境なども連動させたと表現しました。

おめくりいただいて、2ページになります。

基本目標1-4についてです。

ナンバー4のご意見です。

運動部活動の地域移行を見据え、学校の運動部活動の支援について記載すべきというご指摘です。目指す姿1の充実強化することの2行目の右側になりますが、地域のスポーツ活動の支援の前に運動部活動などのという記載を追記しております。

それから、学校の部活動へのアスリートの派遣について、運動部活動へのアスリート派遣という表現への修正も行っております。

また、ご意見をいただいた運動部活動と併せ、同様に、文化部活動の地域移行についても追記する必要があるだろうと考えましたので、基本目標1-5の目指す姿1の施策のところで、下線を引いておりますが、文化部活動における地域の文化芸術団体等との連携・協働に取り組みますという表現を追記しております。

次に、ナンバー５とナンバー６のご意見です。

スポーツ分野にウォーキングに関する記載があってもいいのではないかというご意見です。右側にありますとおり、ウォーキングと明記はしていませんが、それを含め、さらに広く表現できるよう、気軽に楽しめるという表現を追加しております。

おめくりいただきまして、３ページになります。

ナンバー８のご意見です。

スノーリゾートのブランド化に向けて文化芸術に関する記載を追記すべきというご指摘です。ご意見を踏まえまして、目指す姿２の上から二つ目の施策になりますが、ウインタースポーツやスノーアクティビティ、冬の文化体験等の札幌市ならではの魅力的なという記載を冬季観光コンテンツの充実の前に入れさせていただいております。

次に、ナンバー９、ナンバー１０、ナンバー１１番のご意見です。

スノーリゾートについて、基本目標１３に掲げたほうがよいのではないかというご指摘です。基本目標１３では主にウインタースポーツの話を整理しており、基本目標１４は四季を通じてというタイトルになっているので、そのようなご指摘があったということかと思えます。

基本目標１４の目指す姿２ですが、こちらはスポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化していますという目指す姿になっており、まさにスノーリゾートがこの目指す姿の根幹をなす項目ですので、スノーリゾートについてはここにとどめさせていただきたいと検討した結果、整理をさせていただいております。

おめくりいただきまして、４ページになります。

ナンバー１２とナンバー１３のご意見です。

アーバンスポーツやバーチャルスポーツについて、新しい分野であることが分かる表現を加えるべきというご意見です。目指す姿２の充実強化することに、スポーツ庁などが表現しているものに合わせ、アーバンスポーツやバーチャルスポーツなどの新たなスポーツという文言を追記させていただいております。

おめくりいただきまして、５ページになります。

基本目標１５についてです。

ナンバー１５とナンバー１６のご意見です。

スポーツ・文化分野全体を通して、スポーツに関する施策と文化に関する施策のバランスが悪い、芸術文化とスポーツの両方に通じる事柄があるが、文化芸術の具体的な施策が展開できるように見直すべきだというご指摘です。いただいたご意見をしっかりと受け止め、検討を進めているところですが、完全には今回の資料に反映し切れておりません。スポーツと文化のボリューム、また、表現の粒度も含め、ご意見を踏まえた記載を、後ほど資料３のご説明をいたしますけれども、最終的に答申案の形で表現してまいりますので、誤解を招かないようにといたしますか、市民の方にも伝わるように表現を引き続き検討させていただきたいと考えております。

なお、右側の欄にございますが、ニーズに寄り添ったというご指摘に関しては今回の資料で反映させていただいております。

おめくりいただきまして、6ページになります。

ナンバー19のご意見です。

目指す姿1の誰もが芸術文化に親しみ、創作できる環境整備の充実強化することの記載に関して、子どもや障がいがある方への文化芸術の鑑賞体験機会の提供という表現が少し限定的に見えるのではないかとというご指摘です。ご意見を踏まえまして、充実強化することの表現について、子どもや障がいのある方も含めたという記載に修正しております。

次に、ナンバー20のご意見です。

文化芸術の記載について、技術革新などを念頭に未来に関する記載を加えてはどうかというご指摘です。ご意見を踏まえまして、目指す姿2の施策の一つ目の後半部分になりますが、メディアアーツなど新しいテクノロジーの活用や支援等に取り組みますと明記させていただきました。

おめくりいただきまして、7ページになります。

ナンバー21からナンバー24のご意見です。

文化芸術の機能を活用してまちの活性化をさせる視点を追記するべきだというご指摘です。まちの活性化につなげていきますと施策の中に明記しました。

以上、触れなかった項目につきましては記載内容の修正を行っていないのですが、どのように対応していくかという考え方を右側の対応欄に整理をさせていただいておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

○平本部長 ただいま資料2-2を中心にご説明をいただきましたが、それが資料2-1に反映されているということです。

ただいまのご説明についてご質問やご意見があればいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

こちら、経済分野同様、7月の部会の議論をかなり丁寧に反映させていただいていると思っております。それでも十分ではないところ、あるいは、お気づきの点があれば、遠慮なくご指摘をいただきたいと思っております。

○山本（一）委員 まず、質問です。

これまでも札幌市は文化芸術については力を入れた施策を行ってきたと思うのですが、現実に今までの子どもたちに対する文化芸術との触れ合いや教育、その内容について、例えば、学校教育でこういったことをやってきましたという特徴のある教育活動にはどのようなものがあるのでしょうか。

○事務局（中本企画課長） 一言では語り尽くせませんし、いろいろな事業があるのでありますが、例えば、PMFが札幌の特色になりますので、児童生徒のPMF体験機会を設けるという取組は特徴的かなと思っております。

○山本（一）委員 先ほど自己肯定能力という話をさせていただいた中に、子どもたちが

このまちで育って、こんなにたくさんの経験ができた、素晴らしいものに触れることができたとかというのは、多分、一生、心の中に残ると思うのです。

スポーツもそうですけれども、そういった文化芸術の豊かさにどのように触れ、子どもが大きくなるまでに、どれだけの回数、本物に触れてきたのか、それが実現できるような表現があるとありがたいかなと思います。

○平本部会長 どう書いたらいいのか、私も今すぐには分からないのですが、今の山本一枝委員のご指摘は、中本課長がお答えくださったように、PMFのように特徴的な取組もあって、そういう場で本物に触れる機会もあるわけですが、そういったことをもうちょっとアピールしてはどうかというようなご趣旨なのですか。

○山本（一）委員 ボリュームを増やすということです。

回数や機会ですね。PMFだけではなく、例えば、芸術の森で何かをつくってみましたということでもいいのです。文化施設や教育施設がいろいろとありますが、ここで科学実験をしましたなど、そういういろいろな機会を増やしてあげる、ボリュームを増やすということについて、豊かさや創造性を育むという文言の具体的な落とし込みを言葉でどこかに入れていただきたいということです。

○平本部会長 機会を増やすということですね。

書くとする、基本目標15になるのでしょうか。そういう文言が入るかどうかはご検討をいたしましょう。

ただ、今、山本一枝委員のご指摘のそういう機会を増やしていきましょうという趣旨はこの中に含まれていると思うのです。それがボリュームを増やす、機会を増やすという具体的な表現にはなっていないと思うのですが、精神としては含まれていると思うので、もしうまい表現があればそれをぜひ反映させていただきよう、ご検討をお願いいたします。

ほかはいかがでございませうでしょうか。

○原田委員 いろいろと意見を反映していただき、ありがとうございます。以前に比べると随分よく分かるようになりました。

その中で1点、資料2-2の2と3について意見があります。

今、観光庁でスノーリゾート形成の委員会の座長をしているのですが、スノーリゾートの鍵となる概念にベースタウンがあります。

ベースタウンというのは、普通、小さなスキー場のリフトの基点にある温泉街や集落みたいなイメージなのですが、札幌市という200万都市がベースタウンになると発想の転換をしていくと、世界最大級のウインターリゾート都市になるのです。ホテルの部屋の数も2万7千~2万8千室ぐらいはあり、雪も非常に豊富だということで、ベースタウンという発想を取り入れるといいと思います。

加えて、スノーリゾートが成功するには、いわゆるグリーンシーズンの集客も重要となります。夏とその他のシーズンの観光が活発化しないと、四季を通じた観光産業が発展し

ていきません。ですので、スノーだけに特化するのではなく、四季を通じて観光産業に従事できる人材を確保する、そういうことで札幌市の人口もかなり維持できるような気がします。グリーンシーズンとホワイトシーズンの両方を見据えたスポーツ・文化、観光都市の創造に向かっていたいただければと期待しています。

特段、ここをこう書き換えてほしいということはないのですが、そういった発想も今後の検討の中に加えていただければいいなと考えております。

○平本部会長 大きく二つのご指摘をいただきました。

ベースタウンという概念を大都市札幌にうまく適用すると、新しいタイプのウインターリゾートないしは都市型ウインターリゾートを目指せるのではなからうか、そういった先取りもあり得るのではないかということです。

それから、グリーンシーズンの観光も含めたウインタースポーツシティということですね。四季を通じてということが基本目標14には書かれていますが、そうしたことを意識することが札幌にとっての優位性につながるのではないかということでした。

後半のほうは、多分、我々がきちっと意識してそれを進めていくということだと思うのですが、前半のベースタウンということについてはいかがでしょうか。

○事務局（中本企画課長） 恐らく、北海道の観光を考えた場合、ベースタウン的な使われ方を札幌市は既にされているのではないかなと思っています。

今後、新幹線が通りますと、スノーリゾートには、札幌をベースタウンに、道内のいろいろなところに滑りに行くことも可能になってくると思います。そこで、基本目標14の目指す姿2の丸の上から二つ目のスノーリゾートのところに北海道内のスキー場をはじめとした関連事業者の連携というところで少し表現をさせていただいたのですが、今の原田委員のご指摘を含め、ベースタウンという言い方までできるかどうかは分かりませんが、札幌の立ち位置について、この先の観光を考えていったときにどこまで踏み込んで表現できるのかも含め、考えさせていただきたいと思います。

○平本部会長 ほかにお気づきの点があればぜひご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○川島委員 基本目標13の目指す姿2の充実強化することの最後のところにウインタースポーツの観戦文化の醸成とあるのですが、下の取組の3点がありまして、その3番目には、ウインタースポーツの観戦文化の醸成や大規模なウインタースポーツ大会の円滑な運営とあります。充実強化することだけでは、どうも、ウインタースポーツの観戦文化の醸成で収まってしまっているように見えるので、下のボランティアの能力向上はちょっと唐突感があるような気がしています。

充実強化することにウインタースポーツの観戦文化の醸成とウインタースポーツ大会の円滑な運営などの文言があればつながりが見えるのかなと思いましたが、ご提案をさせていただきます。

○平本部会長 単に観戦するだけではなく、大会等を誘致、運営するときの市民の積極的

な関わりが今後重要だろうというご指摘かと思えます。

これも文言を検討していただける余地がありそうなので、ご検討をいただければと思いますが、川島委員、そういうことでよろしいですか。

○川島委員 はい。

○平本部長 ほかにお気づきの点やご質問でも結構ですが、ありませんか。

○山本（一）委員 質問です。

右側の目指す姿2の丸の上のほうにある札幌ドーム周辺における様々なスポーツに触れる機会の提供や集客交流機能の強化というのは具体的にどのようなものをお考えなのでしょうか。

○事務局（中本企画課長） 具体的なものはこれからになります。

ドームだけで終わらせるのではなく、あそこは拠点として位置づけておりますので、そこに人が集まって、いろいろなスポーツに関すること、集客交流できるようなものやっていく必要があるのではないかとこのことを掲げた段階になります。

○山本（一）委員 あの場所は地下鉄駅からすぐですし、子どもを連れて何かをするのにもぴったりの場所だと思いますので、ぜひ充実していただけるといいなと思います。子どもを連れて行って遊ぶ場所、体を鍛える場所、それから、親と一緒に遊んだという思い出もつくれる場所となり、非常にいい試みかと思えますので、充実をぜひお願いいたします。

○平本部長 これは行政として今後しっかり取り組んでいただくということだと思います。

ほかにかがででしょうか。

○柴田委員 今、札幌ドームの話があって、ああ、なるほどと思ったのですけれども、札幌ドーム周辺にはアートグローブというパブリックアートが26件あって、私はそのうちの二つに関わりました

私は、大学の芸術・スポーツビジネス専攻で働いているのですが、札幌ドームはスポーツだけの施設ではないのです。コンサートのほか、商業的なフェアもやるので、今後の札幌ドームのことは実はすごく気になっているのです。私は、設計した原広司先生ともラジオで対談させていただきましたし、すごくいい建物だと思っています。

その使い方としては、様々なスポーツに触れる機会の提供ということだけではなく、今後、さらにスポーツや文化、産業の機会提供と膨らませ、記述してもいいのではないかなという気がしました。

○平本部長 今の柴田委員のご指摘は重要ですね。ドーム、イコール、スポーツという短絡的な結びつけだと、市民そのものもドームに対するイメージが膨らんでいかない可能性があります。ですから、スポーツ施設としてだけ捉えるのではなく、まさにスポーツ、文化、芸術、商業も含めた拠点としてドームを活用するというイメージをもうちょっと明確にされたほうがよからうというご指摘だと思います。

これは少しご検討ください。そういうイメージがあったほうが先のことを考えるときに

いいような気がいたしました。

ほかにいかがでございましょうか。

○中田委員 前にも議論があったかもしれませんが、今の目指す姿2に関することです。

プロスポーツチームと連携したスポーツを通じたまちづくりという文言がありますけれども、具体的にプロスポーツチームと連携したまちづくりとはどういったことをイメージされているか、教えていただいてもよろしいですか。

○事務局（中本企画課長） 現在、既に取り組んでいるものとして、スポーツチームによる社会貢献活動や、学校を訪問していただいたり、選手と子どもたちが交流するような機会をつくっていただいたりして、ハード面というよりはソフト事業が多いかと思います。市民の中にスポーツ、健康づくりが浸透していくような取組と一緒にやっていただくというものを主に想定しております。

○中田委員 ということは、市民に対してプロチームがこういったことをやることによって、まちづくりというか、そういうことに対応するというイメージですか。

○事務局（中本企画課長） はい。

○平本部長 ほかにはいかがでしょう。

（「なし」と発言する者あり）

○平本部長 もしご発言がないようでしたら、次に移ります。最後に全体を通じた議論の余地があれば、戻りたいと思います。

それでは、戦略編の答申イメージについてです。

資料3に基づいてご説明をお願いいたします。

○事務局（中本企画課長） 資料3を再びご覧ください。

具体的な施策を記載する第1章、それから、第2章が答申書の段階でどのような構成イメージになるのか、まだ全部はできておりませんので、イメージをつくってまいりましたので、それをご覧いただき、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

構成を考える上で留意した点ですが、どのようなことに力を入れていくのか、そして、札幌がどう変わっていくのかについて繰り返しご指摘をいただきましたので、それがなるべく市民の方にも伝わるようにしたいと考えて構成しております。

おめくりいただき、2ページをご覧ください。

2ページは、第1章の分野横断的に取り組む施策のイメージになります。

参考資料で言う2になりまして、分野横断的に取り組むユニバーサル、ウェルネス、スマートのページはこうなりますよということです。

第1章の大きい1は、前置きになりますので、省略させていただいておりますが、2以降に具体的なプロジェクトを入れていきたいと考えております。

ここでは、ユニバーサルを例に少し書き込んでみたものです。

プロジェクトの最初に背景等の説明文を挿入します。そして、その下はプロジェクト名

と簡単な説明ということで、ユニバーサルプロジェクトであれば、障壁を取り除くとともに、全ての人の利便性向上に向けた取組の推進と掲げます。また、その下にプロジェクトの柱ということで、何をどうしますという行うことを端的に整理して表現をしていきたいと考えています。

ユニバーサルでいくと、①として、移動経路、建築物のバリアフリーの関連、②として、制度、情報に関すること、③として、意識に関する観点です。これは参考資料の2でご議論をいただいたものを反映したものをこちらの体裁に落とし込んでいくということです。

続いて、3ページをご覧ください。

3ページは、このプロジェクトを推進したことで札幌市がどう変わるかを箇条書きの端的な表現の文章とイラスト、加えて、ロードマップ、成果指標で表現をしたものとなります。

プロジェクトの推進により札幌市はこう変わりますというところには、現状ではバリアフリー化を充実しますという記載を例として入れているのですが、実際には、10年後まちがこう変わっていますというこの絵のイメージを文章で表現していきたいなと思っております、ここはもう少し検討させていただきます。

一番下の成果指標ですが、分野横断的な施策の成果指標については、施策の実施による効果、成果を直接的に測ることのできる指標の設定を検討しております、具体的な内容は次の1月の全体会のおきにお示しをさせていただきたいと考えております。

4ページをご覧ください。

本日も議論をいただいている第2章のイメージになりまして、まちづくりの基本目標ごとに取り組む施策のイメージです。

今回は環境分野を例に取ってイメージをつくりました。

環境分野の基本目標16までのところですが、充実強化しますという囲みを一つ設けまして、分野の特徴的な取組を分かるように表現したいと思っております。

もともとの今日ご議論をいただいた資料では、赤枠の囲みの中に充実強化が入っていましたが、目指す姿ごとに粒度のばらつきがありますので、それも調整した上で目立つところにこれを置きたいと考えております。

また、その下に行きますと、まちづくりの基本目標があつて、目指す姿、さらに、その下に①、②、③と番号を振っており、現在の検討資料は何々に向けてこういうことに取り組みますとだーっと書いてあるのですが、主に何々に向けてというところをきちんとタイトルにし、そこに目が行くようにして、何をどうしますというものをその下の文章で表現していきたいと思っております。今はだーっと文書が並んでいる状態のものでご議論をいただいておりますが、実際には、一つ一つにタイトル、項目、あるいは、複数をまとめてタイトルがついて、より端的に見やすくなるように工夫していきたいと考えております。

こちらにも最後に成果指標を設けたいと思っておりますが、分野別の指標については、基本目標に掲げていることがどれぐらい実現されているかをストレートに市民の方にアンケ

ートでお聞きし、返ってきた評価を点数化して指標化しようと考えております。

そのアンケートでは、5段階評価の質問をするとともに、目指す姿に関するキーワードを幾つか挙げ、それぞれがプラスに動いたのか、マイナスに変わったのかを尋ね、施策の効果のモニタリングにつなげていこうと考えております。

どのような指標を置くかは非常に議論のあるところで、我々としてもなかなか難しいところだと考えているのですが、戦略ビジョンそのものについてモニタリングをどうしていくのかという視点と、それぞれのKPIをどこに設定するのかというミクロの視点もあろうかと思っております。

第1章の横断的施策のところでは、先ほど述べましたとおり、KPIといたしますか、ある程度具体的なパフォーマンスをはかる指標を設定したいという考えですが、第2章の今ご覧いただいている分野の基本目標の施策についてはKGIのような指標の設定が必要ではないかという考えに至ったところです。

まず、基本目標が市民の方々に伝わっているのか、そして、それが実感できるレベルまで変わってきているのかどうかを聞き、危ういところはどこか、あるいは、足りないものは何か、細かいところまで分析し、モニタリングしていくという考え方です。

その背景ですが、札幌市の計画としては、まちづくり戦略ビジョンが最上位にありまして、札幌市の全体を包括する計画となりますが、その下に、4年間でどういった施策展開をしていくかという中期の実施計画があり、さらに、その横ではそれぞれの分野ごとに個別の計画を立てて取り組んでいきます。

それぞれ期間のばらつきがどうしても出てきてしまいます。また、それぞれの計画ごとに指標を設定していくこととなります。さらに、分解していくと、一つ一つの事業ごとにも目標を設定し、事業効果をはかっていきますので、できるだけ重複がないように、そして、それぞれの関連性がそごを来さないようにというようなことを考えてやっていく中で、今回のビジョンにおいてはこのような指標を設定していくのがいいのではないかという検討に至りました。

なお、分野別の充実度、市民の方へのアンケートについては、先行して、間もなく、このビジョンの戦略編の策定前にアンケートを取りたいと考えております。その結果は年明けの全体会のごときにご報告できると思いますので、実際に指標として成立し得るかどうかという点も含め、年明けのごときにご議論をいただくとありがたいなと思っております。

○平本部長 答申案のイメージということで、資料3に基づいてご説明をいただきました。ご質問、ご意見等があればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山本（一）委員 イラストがすごく大きな役割を果たすのではないかと思います。そのイラストについては、専門家の方とも協議され、単にデザイナーに任せるということではなく、十分に吟味してイラスト化していただけたらと思います。

○平本部長 こういうイラストというのは情報量が多く、それから、イメージが伝わるので、中身については専門家も含めて十分な協議をしてほしいということでした。これは

なかなか難しいところかもしれないのですけれども、よろしく願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

○佐藤（大）委員 構成というか、書き方についてです。

僕はずっと経済分野というくくりとスポーツ・文化分野というのがこのくくりだったと思うのですけれども、いろいろと言っている感があって、読み手にとってどう分かりやすく提案できるか、スポーツ・文化と経済は近いのだけれども、これは結構難しいのです。

例えば、先ほどの育成の話も、あちこちで出てきており、育成や人づくりという観点でのまとまり感がちょっと見えにくいというか、つかみにくいなと思ったのです。

だからどうできるのだというのがなかなか言えなくて、いろいろと考えていたのですけれども、多分、文化や芸術、もしかしたら学術やスポーツ、これは創造性の範囲内だと思うのですね。こういったカテゴリーについてどういうことをするかです。また、そのそれぞれの分野で人づくりがあって、教育や育成など、どうやって地域で人をつくっていくのかは、それぞれで言うより、人づくりをどういうふうにしていくのかという大きなくくりがあったほうが構成的には分かりやすいのではないかなと思いました。

また、経済は創出と消費だと思うのです。つまり、文化、芸術、学術やスポーツで人づくりがあって、その人が経済を生み出し、その経済を生み出す根本は文化、芸術、学術、スポーツだということで、三つ目に経済やビジネスが出てくるのかなということです。

スタートアップもそこに入ってくると考えるのですが、その三つが明確に分かるような書き方をここでするとすごく分かりやすいと思いますし、読み手にとっても伝わりやすいのかなと思いました。

具体的にどこまで何ができるかというよりは、書き方のところで工夫ができれば、そういうご対応をいただければいいのではないかなという意見です。

○平本部長 今のお話は、実は骨格に関わるころだと思うのです。どこまでできるかは今の段階では未知数ですけれども、今の佐藤大輔委員のご指摘というのはより読み手にとって分かりやすいことなのかなと思います。つまり、何のためにそれをやるのかで、例えば今の話で言うと、経済は創出と消費ではないかとおっしゃったけれども、そういう観点から見えやすくなるのではないかと思います。

経済やスポーツ・文化のところだけで違う書きようにはならないと思うのですが、今のご趣旨を踏まえてご検討をいただければと思います。実際には難題だと思うのですが、ご検討をよろしく願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

○原田委員 第2章で八つのまちづくりの基本目標が掲げられていますけれども、分野横断的に見て非常に重要な項目に雇用の創出があると思うのです。この基本目標ごとに目標数値を出すのは大変だと思うのですけれども、こういった雇用を生んでいくのだというような横串を刺した議論が必要かなと思います。

やはり、高齢化と人口減は避けられないので、いかに雇用をつくり、人を住ませ、家

庭を持ちという話になると思うのですね。そこを重要なポイントとして、分野横断的に項目として入れていただけたらなという感じがします。

○平本部長 今、原田委員がおっしゃったのは、第2章ではなくて第1章のご指摘でしょうか。

○原田委員 多分、両方だと思います。雇用を生むのが大事なので、第2章では、それを受け、こうこうこういうことをして雇用を生んでいこうみたいな視点があればより戦略的な議論になるのかなと思います。

○平本部長 先ほどの佐藤大輔委員のご意見と多分通ずるところがありますね。これもなかなかの難題だとは思うのですが、ご検討をいただければと思います。

ほかにいかがですか。

○木村委員 資料が戻ってしまうのですけれども、先ほどお話があった資料2-1のところずっと違和感があったので、意見を述べたいと思います。

資料2-1のスポーツ・文化分野の基本目標13で、最後のほうに大会運営を支えるボランティアの能力向上を支援しますとありますよね。ボランティアは労働力で、質と量を高めたいですみたいなことではなく、市民の主体的な参加があつてうれしいですということなので、そういう書きぶりにしたほうがいいのではないかなと思いました。

利他的な人といいますか、札幌市やまちのイベントに主体的に協力したいですという人が増えているほうが地方自治の本質的なところがちゃんとしているまちということですよ。つまり、能力向上を支援するではなく、主体的な参画を歓迎し促します、参加の機会をたくさん提供するという札幌市の意思を強調したほうがいいのではないかなと思います。

「能力向上を支援します」だと、英語がちょっとできる人が外国人観光客を道案内できるように、英語が上達するように支援しますみたいな意味に取れるのです。でも、そうではなく、英語ができるかではなく、札幌のことが好きで、オリンピック等に来てくれた人を街ぐるみで気持ちよくご案内します、ただの市民なのだけれども、プロモーターとして活動してくれるボランティアを増やしますというようなことを、それが分かるように書いたほうがいいのではないかなと思いました。

○平本部長 重要なお指摘です。ただで大会を運営してくれる市民がたくさん増えればいいと思ってこう書いているわけではないと思うのですけれども、ともすればそう見えてしまいがちな面もあるということですよ。

そして、その本質は、今、木村委員がおっしゃったように、市民が参加して、しかも、おもてなしという言葉がいいかどうかは分からないけれども、市外、道外、国外の方がいらっしゃったとき、札幌市のよさが伝わっていくような大会運営を市民参加型でやれることが望ましいという趣旨なので、それが分かるようにうまく書かなければいけないというご指摘でしたので、ぜひこれはご検討ください。

今、資料3に基づき、答申のイメージについてご議論をいただいているのですけれども、前のところに遡ってお気づきの点があれば、それでも構いませんので、何なりとご発言を

いただければと思いますが、いかがでしょう。

○山本（一）委員 今気がついたのですが、スポーツ・文化分野の基本目標14の一番下の丸のところですか。スポーツで得られた医科学的知見を市民に還元する仕組みづくりに向けて、関係機関との連携体制を構築するほか、ICTの活用などによるスポーツ医学や栄養学、予防医学等の知見を生かした取組を行うとあります。

ともてすばらしいことですが、具体的にどういったことをされるお考えでしょうか。

○平本部会長 これは、7月だったか、その前だったかの議論で出されたご意見が反映されたものだと思うのですが、具体的なイメージはお持ちですか。

○事務局（中本企画課長） 具体はこれからという話になってしまうのですが、オリパラなどを契機にいろいろなノウハウが蓄積されていく、プロ選手やプロ選手のサポートをされている方が持っている知見には非常に優れたものがあります。オリパラがどうなるかは先の話ですが、開催できる都市となれば、その利点を市民がしっかりと享受できる形に取組として落とし込んでいきたいと考えております。

○山本（一）委員 実は、北見工業大学がカーリングについて非常に多くの知見を持っていらっしゃるし、北方地域の研究成果もたくさんためていらっしゃるし、スポーツで得られた知見が物すごくたくさん集まると大きな経済効果をもたらすかもしれません。ですから、大学も含めた連携で確実に札幌市の強みにしていただけたらと思います。

○平本部会長 先ほどの佐藤大輔委員、原田委員、山本一枝委員のご指摘で、実を言うと、スポーツ・文化分野や経済分野と分けて議論していますが、先ほどの横串を通すというご指摘のとおり、スポーツ・文化の話が札幌市の経済の活性化につながったり、もっとうまくいくと雇用につながったりする可能性もあるのです。

資料3の答申イメージでいくと、第1章では分野横断的を一つの特徴にしている、うたっているのです。その分野横断的というのはユニバーサルとウェルネスとスマートだけでも、その三つの分野だけではなく、例えば、経済分野とスポーツ・文化分野の間でも横串が刺せるし、その横串がもうちょっと伸びていくとウェルネスの何かと関わる部分にも伸びていくのです。

答申書にしてしまうと、どうしてもある種の構造が必要だから、分けて書いて、漏れなくダブリなく書くような構成にせざるを得ないのですが、本当はダブるところがいっぱいあって、そののり代といいますか、重なりのところに新たに政策としてやっていくべき何かがあるのです。

これまでは縦割りでやってきたから、そのダブっている部分をできるだけ排除しようとしてきたのですが、本当は重なっている部分にこそ重要なものがある可能性があるのかなということを今日の委員の皆様のご発言を聞きながら感じました。

戦略編の答申でどう書けるかは別ですが、これからの行政が施策や事業を展開していくとき、重なっている部分をどううまく重ねながら横串を通していくかという発想をぜひ持つといいですね。今回のまちづくり戦略ビジョンの議論を通じてずっと感じてはいたので

すけれども、今日のご発言を伺うと、やはり、そういうところが難しく、書類には書けないのだけれども、そういう精神をきちんと持っていることが重要だと思いましたので、発言させてもらいました。

ほかに、全体を通じてでも構いませんし、資料3の答申イメージでも構わないのですけれども、何か追加でご発言をいただくことはございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本部会長 それでは、資料1と資料2と資料3についてご審議をいただき、今日のところはこれ以上のご発言はなさそうなので、議論についてはこれでおしまいにさせていただきます、事務局に進行をお戻しいたします。

3. 閉 会

○事務局（浅村政策企画部長） 本日も活発なご議論をいただきまして、ありがとうございます。

前回ご指摘をいただいたものについては調整、検討をさせていただき、施策に反映をさせていただいたということもあり、個別のテーマというよりは全体を通した俯瞰的なご指摘が多かったなと感じております。

例えば、人づくりについては、教育の分野がまちづくりの根幹をなすと我々も思っています、子ども・若者分野で教育という分野を立て、その施策の中で方向性を示させていただいています。

それ以外に雇用の問題も出ましたが、様々な分野が相互に関連しており、基本目標ごとのテーマごとに、横串といいますか、相互に全て関連しております。ただ、平本部会長にご指摘をいただいたように、どうしても構造化する必要がありまして、テーマごとの施策を示していますが、それぞれがそれぞれに関連しているということを我々も強く意識し、表現できるところはしていきたいと思えます。

それから、我々、行政実務者として課題と思っておりますのは、行政課題が非常に複雑化していく中で、これはどちらの分野のことなのかということで、抜け落ちがあるのではないかということです。これは行財政運営全般に言えることですが、その連携をしていかないと、本来解決すべき課題、もしくは、伸ばしていける課題ができない状況に陥るのではないかという危惧を持っております。そこで、分野ごとの施策の目標ということではなく、行財政運営の在り方自体、組織論といいますか、そこに関わってくる課題であると思えますので、第3章の中でもう少しその辺の表現ができるかどうかの検討をさせていただきたいと思えます。

また、芸術文化にしましてもスノーリゾートにしましても、札幌という都市が持つ都市機能をどう市民に還元するか、もしくは、関係人口や交流人口につなげていくかという視点が非常に重要だと考えております。

特に、経済の分野、それから、スポーツ・文化の分野におきましては、札幌が培ってきた都市機能を最大限活用する、または、それを伸ばしていくことが重要だと思っております。今日は関係部局もオブザーバー参加しておりますので、しっかりと受け止めさせていただき、施策の展開に十分反映させ、審議会は年明けになりますけれども、本日の議論を踏まえた答申案を作成していきたいと考えております。

○事務局（中本企画課長） 次回会議につきましては、今、部長からもございましたが、1月頃に審議회를予定しております。そして、想定ではそれが最後の回となります。改めてノーザンクロスから調整させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○平本部長 本日も活発なご議論、それから、有意義なご指摘等をいただきまして、感謝を申し上げます。

それでは、本日の部会はこれで終了させていただきまして、年明けの全体会でまた皆様とお会いできればと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上